

『山の上ホテル物語』

常盤新平 著 白水社 1,995円(税込)

多くの作家に愛される ホテルの秘密

会員 濱田 憲孝 (59期)



皇居からほど近い千代田区神田駿河台にそのホテルは建っている。ご存知の方も少なくないであろうが、多くの作家に愛されてきた「山の上ホテル」である。

部屋数100に満たないこの都会の小さなホテルを語るうえで欠かせないのが、このホテルが数多くの著名作家に愛され続けてきたということである。

本書に名前が挙げられた主立った顔ぶれをみても、「池波正太郎、井上靖、川端康成、檀一雄、松本清張、三島由紀夫」等のそうそうたる著名作家が、このホテルを常宿にし、こよなく愛していたことが分かる。

本書は、自身も作家としてこのホテルをこよなく愛する著者が、いかにしてこのホテルが生まれ、いかにして多くの作家に愛されるホテルとなったのか、創業者の哲学やホテルの舞台裏も含め、その秘密を

自ら語る物語である。

そうした秘密の一端は、ある作家が「他のホテルのフロントのように、何でも事務的に処理するという、いわゆるプロらしきがない。しかし、どの従業員も話をしてみると、とても確りしているのがわかる。もしかしたら、私が山の上ホテルを好むのは、このことかもしれない」と語るエピソードに色濃く表れている。

昨今、外資の大型高級ホテルの進出が目覚ましい東京であるが、そうした洗練された高級ホテルとはいささか異なるこのホテルが、いかにして多くの作家を引きつけるのか、その秘密は、クライアントに対してサービスを提供する立場にある弁護士にとっても大いに参考になるものであろう。

是非一度、この都会の小さなホテルを訪れてみたいと思わせる一冊である。